

共通事項	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
	ア 音楽を形づくっている要素うち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る。
	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
	(イ) 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み
	イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解する。

3 内容の取り扱い

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れる。
- (2) 歌唱の指導については、相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法(※1)を用いる。歌唱教材については、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにする。
- (3) 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択する。第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択する。
- (4) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための様々な発想ができるように指導する。つくった音楽の記譜の仕方について、必要に応じて指導する。拍節的でないリズム(※2)、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階など児童の実態に応じて取り上げる。
- (5) 「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」については、児童の学習状況を考慮して取り扱う。
 ※1…各長調の主音をドとし、各短調の主音をラとした階名唱。例えばト長調の場合、ソをドとして歌う。
 ※2…一定した拍や拍子感のないリズム

4 評価の観点の趣旨

観 点	第3学年及び第4学年
音楽への関心・意欲・態度	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。
音楽的な感受や表現の工夫	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
表現の技能	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。

5 単元の配列例

- (1) [共通事項]は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で、共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるように工夫する。
- (2) 国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるように指導する。
- (3) 道徳の時間などに関連を考慮しながら、音楽科の特質に応じて適切な指導をする。